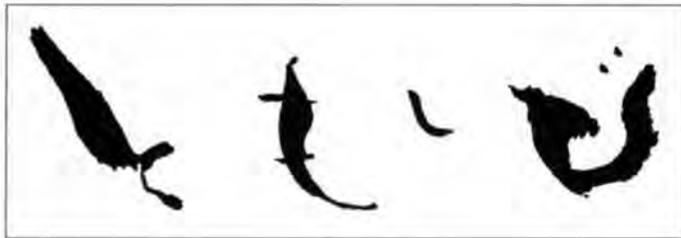


大学婦人協会東京支部

2000. 3
第27号

- ・輝いて生きる—交わりのなかで— (1P)
- ・IFUWの最近の動きから (2P)
- ・栃木支部だより (5P)

輝いて生きる

—交わりのなかで—

JAUW会長 山本 和代

新しい年を迎え、東京支部の皆様もそれぞれの抱負をもって種々の活動に励んでいらっしゃると思います。私は年の初めに大学婦人協会の歴史を紐解いて、東京支部の方がたをはじめ多くの会員たちが、時代に先駆け女性の視点、国際的な視野に立って多方面に活動を展開してきたことに目を見張る思いがしました。同時にこれらの方がたが、生涯現役、いまま世界のリーダーとして活躍されていることに、感銘と励ましを与えられました。

最近、百七歳の長寿を全うされ、いまや国民的なアイドルともなったキンさんの明るい笑顔や日常生活がテレビや週刊誌で紹介されました。百歳までは家に引きこもりがちでしたが、ギンさんとのペアで脚光を浴び人との出会いが重なるにつれて、曲っていた背中もシャンと伸び、おしゃれを楽しみ、ウィットに富んだ会話が飛び出すようになったという記事が印象に残っています。人の心を和ますあの魅力は単に年輪を重ねたというだけでなく、社会との、人

とのかかわりのなかで引き出され磨かれていったものであったと思います。マスコミ攻勢のなかで時には煩わしいこともあったでしょうが、人への配慮、サービスピ精神が旺盛で、ご自分もそのなかでさらに成長していかれたとの感を深くします。

一九七〇年代、ボランティア活動が行政サイドでも推奨されましたが、当時文部省は「ボランティア活動は他のための活動だけでなく、その活動を通して自らの人間性を高め、自分自身の生きがい確立していくことによって自己充足や自己啓発につながるものでなくてはならない」といった見解を出しています。単なる奉仕活動としてだけでなく、女性の能力開発・活用の場として位置づけた意義は大きかったと思いますが、大学婦人協会は五十余年の歩みのなかで、まさにこのことを実践してきたと思います。

私は休日ひとりで家にこもってなすこともなく過ごし、ふと鏡を見た時に、この「オパールさん」誰だろうとがく然とすることがあります。人生九十年時代、いつまでも若々しく自分の生を自分の責任で十分に生き切ることは難しいことです。現在の立場を時に重荷に思うこともありま

すが、人との交わりの場を、役割を与えられていることに感謝しています。人は人のかかわり合いのなかで自らの生きる意味が確かめられ、自分の価値を再認識できるのでないでしょうか。「自分がわからない」「居場所がない」といった若者たちの声が心に重く響いてきます。性別、年齢、立場にとらわれず私らしく生きることを認め合い保障し合っていくことが人権を守ることであり、女性のエンパワーメントの基底であると思います。男女共同参画社会基本法が制定されたとはいえこの実現にはまだ多くの隘路があることを、

昨秋のセミナーでもアジアの友とともに痛感したことでした。しかし私たちに、JAUWに、IFUWにつながる仲間がいます。ひとりでは困難なことも支え合って活動していくことで各自の生き方も輝きを増し、そのことがまた、家庭に社会に火を灯すことになるでしょう。

会報一九六号でご報告したように、今後のJAUWの在り方について積極的な意見や感想が寄せられたことは嬉しいことでした。会員ひとりひとりの思いを大切に、そのエネルギーが生かせるよう活動の場が開かれていくことを期待しています。

IFUWの最近の動きから

国際第一委員長 平野 和子

IFUWから毎月来信する情報を皆様にお伝えする手段が限られているため、私なりに読み取ったメッセージをお伝えします。IFUWは一九九九年から二〇〇一年迄の三年期の戦略計画を見直し、「ジェンダーとグローバルイニシアクション」を大きなテーマに、教育、雇用と経済、リーダーシップとパワー、新しいテクノロジー、人の安全保障という側面から考えていくこととし、三月に開かれる八十周年祝賀行事のワークショップも、このようなテーマで行われます。このような戦略に向け、組織の問題として、a. 会員の増強、b. 存在感と効率性を高めること、c. フォーカス・プログラムの推進が優先課題とされています。

こうした課題の下、IFUW本部としてリーダーシップの養成プログラムを策定する一方、各国連盟・協会(NFA)が会員増強に向けて、これら優先項目に関連する活動プログラムに取り組み、NFA間のパートナーシップを促すことを求めています。またホームページを活用して情報の交換やアクセスの効率を高め

ることも求めています。

さらにフォーカス・プログラムの推進とも関連しますが、会報にある創立八十周年祝賀チャレンジへの参加と、二〇〇一年のオタワ総会における学際セミナーやワークショップへの参加を呼びかけています。今年期の研究・行動計画(SAAP)のテーマ、「グローバルイニシアクション…教育を通しての共生」を柱に、グローバルイニシアクションと女性の経済的エンパワーメント、女性のリーダーシップ、生涯学習、高齢女性の権利とニーズなど、定められたテーマに沿った研究発表も募集しています。

また、第一次大戦の戦禍を繰り返すまいとの願いから創立されたIFUWの八十周年という節目の今年が「国際平和文化年」(仮称)とされたことから、平和の文化の育成も重要なテーマです。来年のオタワ総会でJAUWの声を反映させるため、ここに挙げたさまざまなテーマに沿った研究に取り組み、あるいは決議案の提示に結びつけるアイデアを皆様からぜひ寄せていただきたいと願っています。なお、月例の来信情報はIFUWのホームページ: <http://www.ifuw.org/> で閲覧できます。

'99セミナー報告(99・10・15~17)

副支部長 柴崎 富子

一九九九年度全国セミナーは、木屋の香る三日間、国立婦人教育会館において会員一七六名、アジアからのメンバー三十名、合計二〇六名で盛大に開催された。UWAとJAUWとの合同セミナーを開催するに際しての祝辞をIFUW第一副会長青木怜子氏より頂戴した。セミナーのテーマは昨年引き続き「女性のエンパワーメントー男女共同参画社会の確立をめざして」である。来賓として、文部省生涯学習局男女共同参画学習課長有松育子氏及び大野国立婦人教育会館館長を迎えた。

初日はアジア大学婦人連盟総会。



二日目はセミナーで、一日を午前、午後、そして夜もと、フルに活用。最終日は、研究発表、セッション報告、決議に向けての全体討議でセミナーを終了した。

研究発表は、六支部、三委員会、一研究会、アジアの四ヶ国からの調査、研究の成果が述べられた。

基調講演は、国連日本政府代表目黒依子上智大学教授による「エンパワーメントのストラテジー」。

シンポジウムは青木怜子氏をコーディネーターとし、テーマは「女性の人権ー二十一世紀アジアの課題」であった。アジア四ヶ国(韓国・ネパール・インド・日本)からパネリストが参加。同時通訳の便宜もはかられて、活発なセミナーとなった。

本年度セミナーの特徴は、(一)調査・研究の継続性 (二)国際性 (三)国際意識の共有性 (四)セッション方式以上の四つに分類されるが、次年度に向かつての成果が期待される。なお、セミナーについての詳細は、「JAUW」一九五号をご覧いただきたい。

セミナー終了後の京都・日光への旅、及び江戸川区めぐりバスツアーも楽しい思い出となったと信じている。

講演 (99・9・29)

「源氏物語について」

講師 秋山 虔氏



秋山虔先生の講演開催のお知らせが会員に届くと、間もなく申し込みが定員に

達したと聞く。源氏物語に多少とも興味のある人なら、一度はその驚咳に接してみたいと思う憧れの先生である。

私の乏しい源氏物語関係の蔵書の中にも、先生のご著書はゆうに十種類を超える。これを機にと夏休みに読み返してみても、先生のご研究の偉大さに、今さらながら驚かされた。

「今は源氏物語ブームといわれるが、源氏物語を読んだという人の多くは、原文ではなく現代語訳で読んでいる。現代語訳には、古典そのものの持つ言葉の微妙なニュアンスは失われ、当時の人の深い心情やそれを育んだ文化は、もはや読み取ることはできない」と語られた。つい安直に現代語に置き換えがちな自分を反省するとともに、「時間をかけて当時の言葉に馴染んでゆくことが、当

時の文化に馴染んでゆくこと」との先生の戒めを、改めて心に刻んだ。

しかし、長大な源氏物語を原文で読み通すことは、なかなか一人では難しい。「国宝源氏物語絵巻」の「東屋」や「無名草子」にもあるように、何人かの仲間で見ても、当時の読み方に近い」とも話された。

私は、「良い本は、本自体がゆっくり読むことを読者に要求してくる」と、自分の遅読の言い訳にしているが、源氏物語はまさにゆっくりじっくり読むことを読者に突きつけてくる本である。それと同時に、読む仲間が智慧を出し合って読むことの楽しさを教えてくれる本でもあると思っ

ている。東京支部の「源氏物語を読む会」も四年めに入り、テキストを開くと、頭を平成モードから平安モードにスムーズに切り替えられるようになってきた。物語もこれからが佳境。先生のお言葉を大切にしていっそう読みを深め、何年後には全員揃って読み終えたいと願っている。今回の秋山先生のご講演は、私たちへの応援歌にもなったような気がした。

(坂上栄美子)

講演 (99・11・24)

「ゴミの減量化について」

講師 渋谷 謙三氏

雨にけふる新宿御苑を眼下に見おろす四谷地域センターにて。講師の渋谷謙三氏は東村山市や逗子市で、市と市民両サイドの意識を触発して、ゴミの減量化、リサイクル化に実績を作った方で、自ら「役所と市民の掛け橋をする通訳者」と称されている方である。ゴミ問題は市民サイドで懸案を作り、それを役所に実行してもらわなければならないという基本姿勢で「通訳」の仕事に取り組んでおられる。

意志疎通のむずかしい役所と市民の「通訳」をしているだけあって、渋谷氏のゴミ減量化の提言は具体的で分かりやすく、納得できるものばかりだった。たとえば、もう国サイズで取り組みができていたドイツを挙げて、ゴミの有料化がいかに市民のゴミ減量化意識に役立っているか、示してくれた。また家庭から出される生ゴミの九十パーセント以上は資源化できるデータや、燃えるゴミの五十パーセントは台所の生ゴミであるデータを挙げて、減量化がどの程度どうやってできるか説明して

いただき、とても参考になった。

私たち一人一人の努力がいかに重要で、地域サイズのゴミ減量化に貢献するか、納得させられる講演であった。また渋谷氏のように、市民レベルの取り組みを公の取り組みにまで引き上げる努力を続けている人の存在を知ったことも収穫だった。

(溝渕ひろ子)

「武蔵野の一日」

快晴に恵まれた十一月のある日、私たち東京支部委員は、鷹の台から、玉川上水グリーン・ロードを、せせらぎを聞きながら散策。やがて醫王山小川寺の立派な仁王門に迎えられた。手入れの行き届いたお庭から、広い書院に案内される。そこからの眺めがまた、すばらしい。築山を配した美事な造園に、一同歓声を上げる。小平の小川寺は、支部委員Mさんのお宅。小春日の静かな書院で委員会をもった。

午後は、京懐石の四季亭に場所を移して会食。武蔵野の湧水と雑木林をとり入れた風情ある料亭で、一同料理に舌鼓をうち、大いに盛り上がったのだった。

(山崎 邦子)

サークルから

○新設「源氏物語を読む会Ⅱ」

5月9日からスタートします。

第二、三、四火曜日

十時半～十二時半

会場・JAUW事務所

会費・月三千円

講師・坂上栄美子(大阪女子大卒)

ご希望の方は、至急、事務所にお申し込みください。

○英語講座

いま「ロンドン史」を講読中。スウィフトの「ガリバー旅行記」(日本語訳)を読んで感想を話し合いながら、当時(とくにロンドン大火の後)の社会情勢を勉強していく予定。講師が大変熱心で、去年九月のロンドン歴史散歩も大好評でした。

読書会のメンバー募集中です。

講師・松本節也氏(元法政大学教授)

第一、三金曜日十時～十二時

会場・大久保地域センター

問い合わせ・峯川まで。

☎〇三―三六八四―八三〇七

○東京漫歩くらぶ

年二、三回の予定で。あたたかくなったら豊島区あたりはどうかと思



英語講座ロンドンの旅・パースのロイヤル・クレセントの前で

っています。ご希望をお寄せください。

☎&F〇三―三六八四―八三〇七

峯川

そのほかのサークルも、元気に活動しています。次回、くわしくお知らせします。

謹用

佐藤 芙蓉氏	茶	'99年2月
武田 純子氏	聖	'99年3月
木村 晴子氏	津	'99年7月
白井 常氏	東女	'99年7月

◇ご寄付いただきました。お礼を申し上げます。

熊切 富子氏 一万三千元

源氏物語を読む会 五万円

楽しい俳句会 三万円

フラワーアレンジメント 二万七百元

東京漫歩くらぶ 二万円

英語講座 五千元

◇寄付しました。

留学生相談室 五万円

国内奨学金 十万円

◇寄贈図書紹介

『過去と闘う国々』(新曜社)

― 共産主義のトラウマを

どう生きるか―

T・ローゼンバーグ著

平野 和子訳

寄贈者 平野 和子氏

◇講演会(講師)などのご希望がありましたら、お知らせください

◇去る2月23日に行われたマリコ・テラサキ・ミラー氏の講演については、第28号に掲載いたします。

◇ホームページを開設しました。

http://www3.tky3web.ne.jp/jauw

東京支部を検索してください。

◇お願い

使用済みの、切手、テレフォンカードなどを、事務所にお送りください。年末にまとめて、中野盲人自立センターに届けます。



お正月の花(フラワーアレンジメント同好会)

栃木支部だより

栃木支部長 増淵 民子

東京から東北新幹線に乗って一時
間弱、右手の窓外に日光連山が浮か
んでくると、栃木県の宇都宮です。
日光や那須の連山は、常に私を呼ん
でいます。

春、最大の楽しみは、五月の連休
の前後からの「赤やしおつつじ」の
追っかけドライブです。まだ、どの
樹木の芽も出ない茶色の山肌、薄
い、鮮やかなピンクの花が群落で咲
く様は息を飲む美しさです。深い谷
の斜面をうめる「やしお」が咲く様
は桃源郷のような。六月には、桜とし
やくなげとつつじが一緒に咲く那須
の峯を登らなくては。十月になると
言わずと知れた紅葉の追っかけ。登
山に写真にと、仕事の合間に山に出
掛け、温泉も楽しむことができます。

さて、自然の楽しみから「ひと」
に目を転じると、当地の人はそこそ
こに満足し、保守的で、おとなしい
のです。例えば、県女性連協の各団
体の長は、殆ど国連婦人の十年中間
年の時代に会長になった人たち。文
化が低いからでは?とも思えます。

このようになる理由の一つには、

教育が挙げられます。長い間、大学
は農学部・教育学部だけの国立大学
ただ一つだけだったために、優秀な

高校生は、東京の大学へ進学、就職
してしまします。勿論、優秀な人も
ユーターンしてきますが、職種、数
に限りがあります。つまり、東京か
らこんなに近くても、地方には知的
集団が少ないので、文化を培って
いく層が薄いということになります。

この敵を頼まれたのは新春のつど
いに出席したことですが、栃木
支部は、前々会長の時代から出席し
ていました。「JAUWに入ったら、
本部の行事に出席しなくては。あの
本部の、飾らず、自然体で、上品で、
知的な雰囲気を感じて、カルチ
ヤーショックを受けなくては」とい
うことからでした。

ところで、昨秋、当支部はUWA
総会で来日した香港、ネパール、バ
ングラディッシュの人たちを日光へ
迎えました。韓国の方の団もマイ
クロバスで日光観光をしたと聞いて
おります。東照宮も、関東でただ一
つ世界遺産になりました。どうぞ栃
木へお越しください。ご案内、情報
提供いたします。

「地球環境に果たす女性の役割」

— 公開シンポジウムに参加して —

7月25日幕張メッセで開催された
第11回国際女性技術者、科学者会議
(ICWES)主催の公開シンポジ
ウム「地球環境に果たす女性の役
割」に、支部委員七名が参加した。
一九六四年に米国で開かれて以来三
十五年、三年ごとに会議が開かれ、
女性科学者、技術者が、時代に沿っ
た課題について日頃の研究を国際的
な立場で発表し、女性の科学技術分
野での存在をアピールすることが目
的である。今回日本での開催は、こ
の分野でも日本の果たす役割が大き
くなったことの表れである。

元環境庁長官石井道子氏の開会の
挨拶に続き、第一部で日本における
取り組みを紹介。四人の代表者が、
それぞれの地域(千葉、神奈川、埼
玉、東京)での自然環境保護のため
の活動を報告。その中で、渋谷謙三
氏が東村山市のごみ問題への取り組
みを紹介されたのが印象的。燃やさ
ず、埋めずを目標に、市民が主導と
なって市政を動かした例は皆の注目
を浴びた。

第二部では、地球規模の循環型社
会をめざして、国際的な連携とその

中での女性の役割がテーマ。四人の
女性科学者(アメリカ2、カナダ、
フィリピン)から、専門分野での興
味ある理論と実践活動の発表があ
り、環境問題に取り組む真摯な態度
が伝わってきた。

印象に残った点として、科学分野
で活躍する女性の割合は、世界的に
も少ないが環境分野では半数近くを
占め、この分野での女性の活躍が期
待されること。

リサイクルを、消極的なイメージ
ではなく、二十一世紀に向かいもつ
と組織的に、科学的に、創造的に考
えたい。参加者からのコメント「い
まの我々の生活をつくりあげたのは
誰か」をヒントに、「文明とは何か」
をもう一度考え直したい。現在の生
活を維持しながら環境をより良くす
ることの難しさ。物事をあきらめな
いで、継続して考えることのできる
力を持った女性がリーダーシップを
取って、私たち一人一人がすぐにで
きることを実行したい。

(西尾 順子)



「声のひろば」

「待春」

二月生まれだからというわけではないが、冬が好きだ。冬ざれとか、寒さを耐えしのぶというイメージではない。桜木や柳は已に芽をびつしりとつけ、春の到来を待っている。生命を継ぎ育てている力に、希望を感じるのである。

冬至には、太陽の再来を願うという意味があるときく。その日、日本人々は柚子の香で身を浄める。翌日、クリスマスを祝い、直ちに新しい年を迎える準備に忙しく立ち働く。慌しいけれど、活気溢れる一週間ではある。一九九九年の暮れは、一年を送ると共に百年を送る、それ以上に千年を送り次の千年を迎えるという「ミレナリオ千年祭」に街が煌いた。皆、未来の希望を見つめているにちがいない。

「世の無常」がよく理解できる年齢に達してしまった。別れの日が訪れた時、悔いることがないように、日頃から人々と真心をこめて接していきたい。心ない言動は厳に慎むように心掛けたいと思っている。

(海老原典子)

「セミナーに参加して」

二日間通しての参加は初めての経験でした。一日目の目黒先生のお話は「エンパワーメント」「ジェンダー」等、何となく肌では感じとっていたことを改めてはっきり認識させられる良い機会でした。アジアの発展途上国のパネリストから女子差別の実情を聞くにつけ、心が重くなるこれらの問題も、学校教育、地域の草根運動を通しての啓蒙がやがてはこれらをなくす重要なパワーとなることも実感しました。ただ、そこで「じゃあ一体、JAUWとして何が出来るの?」という疑問が常に私の頭をよぎるのです。パネリストたちの発表も、予め資料が配布されているのですから、資料通りの説明で終わるのではなく、我々としてどう行動したら良いかという点にポイントを置いた時間の使い方をして欲しかったと思います。二日目の「全体討議」でやっとその場が持たせて、多くの貴重な意見が出て盛り上がってきたところで時間切れとなり、残念でした。このセミナーの結果を決議要書にまとめただけで終わらず、私にも出来る具体的活動に結びつくことを期待します。

(河井 尚子)

「すみれのひとり言」

1999・冬

うれしいことがありました。秋の一日、山門を入って来たお客様が、「まあ、かわいいすみれ」と私の存在に気づき感動してくださったのです。

境内の一角、四方佛の台座の石に生えた苔の上に私の種子は着地しました。ふかふかの布団のように座り心地のよいこの場所に、そつと花ひらかせて居りました。花や香を佛に手向ける人はいても、気づかれぬくらいひっそりと。

夏の終り、ここの家のお母さんが見つけてくれました。松、横、つげなどの常緑樹や灯籠などの間にあってその風情がよいというのです。そして「お友達がみえる頃まで頑張つて咲いているのよ」と声をかけられていたのです。他の場所に生えた仲間たちは、花開く前に雑草扱いで抜きとられてしまっているのに。

つわぶきの黄色がきれいな季節となり、木枯らしが吹いても、私は周囲の樹木に守られて、まだ色鮮やかでした。でも霜には降参です。庇つてくれていたもみじもほとんどの葉を落してしまいました。



丸の内 東京ミレナリオ

二千年の春、こんどは大勢の仲間たちと、又この苔のクッションの上に彩かな花を咲かせようと思ひます。
(M・sumire)

(編集部から)

表記上の訂正のほかは、原文のまま掲載しました。今回は投稿が少ないようです。次号には、奮つてご投稿ください。支部活動へのご意見、日常の雑感など何でも結構です。四百字程度でお待ちしています。〃ともしび〃声のひろば まで。

2000年東京支部総会のお知らせ

- ・四月二十二日(土) 一時から
- ・国立教育会館(虎ノ門)
- ・記念講演 和泉 淳子氏
- ・「狂言の世界とシェイクスピア」
- 〈講師紹介〉

一九六九年和泉流宗家の長女として誕生。三歳で能舞台に立つ。一九八九年、初めての女性狂言師となる。弟、和泉元彌氏(現家元)、妹、三宅藤九郎氏とともに国際的にも活動。一九八八年の中国公演をはじめとして、マレーシア、英国、フランス、アメリカ、イタリー、デンマークetc.と、海外での評価も高い。一九八九年、文部大臣から感謝状を受ける。日本女子大学卒。支部会員の皆様、多数ご出席ください。

なお、記念講演には、会員でない方も、ぜひお誘いください。無料です。詳細は追ってご案内します。



二〇〇〇年に寄せて

ボランティアグループ留学生相談室 福島みち子

継続だけを唯一の力として今日に至った私たちのグループも、今年七月に創設満十四年を迎えます。

文部省の発表によれば一九九八年五月一日現在の留学生受け入れ数は五万五千七五五人、受け入れ態勢も、徐々に整備されつつあるように感じます。一九九九年一月から十二月の当室への相談件数は四、七〇二件、前年に比べ約三〇〇件の減少でした。相談件数の減少が留学生たちの問題の減少に直結するならば喜ばしい限りなのですが、留学生・就学生を受け入れる社会構造の変化、過去に例を見ないような事件が発生しつつある社会のなかで、留学生・就学生が初期の目的を達成するには、新たな問題にも遭遇することになります。

一方私たちは、これまで東京都国際交流財団からの助成を得て何とか事務所を維持してきましたが、都の財政難から二〇〇〇年度以降の運営資金をどうするかという大問題を抱えています。私たちには、苦しく難しい二〇〇〇年の年明けです。

JAUW「新春のつどい」国内奨学金贈呈式

(2000・1・8)

ホテルセンチュリーハイアットにおける「新春のつどい」は、二〇〇〇年の幕あけにふさわしく華やかに催された。

「JAUW」一九六号に詳細既報のとおり、国内奨学金の受賞者は一般



奨学生(院生九名、学部生五名)、安井医学奨学生(一名)、ホームズ奨学生(一名)、社会福祉奨学生(五名)。一般奨学生のうち一名分(十万円)が東京支部の寄付によるものである。若い平野氏姉妹による演奏(ソプラノ独唱とピアノ伴奏)は新春の華やきをより高め、全国から厳しい審査をへて選ばれた奨学生たちは、頼もしく明るい未来を感じさせてくれた。

中には実社会での経験から、たくさんさんのテーマを抱えて学部や大学院での研究生活に戻った学生もあり、彼女たちの喜びを共に出来たことはうれしい。「他の奨学金は年令などの制限で外されてしまうが、JAUWは広く受入れてくれた。学術書の購入等大切にしたい」とのこと。欠席ではあったが五十才の院生の受賞者もあり、この会の心の広さを物語ると言えよう。

バザーや、他のコツコツとした裾野での活動に意義を見出した一日でもあった。
(写真・国内奨学生の皆さんとJAUW役員)

事業報告・予定

- 7・25 ICWES、公開シンポジウムに参加
テーマ「地球環境に果たす女性の役割」
- 9・29 講演「源氏物語について」
講師 秋山 虔氏
- 10・15 JAUWセミナー
UWA総会
- 16 テーマ「女性のエンパワメント」
- 11・9 バスツアー（財務主催）
秩父・長瀬もみじ狩り
- 11・24 講演「ゴミ減量化について」
講師 渋谷謙三氏
- 12・22 国外奨学生を囲む会（国外奨学委との共催）
- 1・8 新春のつどい（本部主催）
国内奨学金贈呈式（国内奨学・社会福祉委との共催）
- 2・23 講演「新しいミレニアムを迎えて」講師 マリコ・テラサキ・ミラー氏
- 3・1 ぐともしび 第27号発行
- 4・22 東京支部総会
記念講演 和泉淳子氏
- 7・1 ぐともしび 第28号発行

1999年東京支部新入会員

(2000年2月現在)

氏名	出身校	住所
斎小大	女子学院	
藤西野	慶応義塾	
大野	慶応義塾	
岩野	慶応義塾	
石野	慶応義塾	
星野	慶応義塾	
深野	慶応義塾	
日野	慶応義塾	
高野	慶応義塾	
住野	慶応義塾	
三野	慶応義塾	
森野	慶応義塾	
山野	慶応義塾	
崎野	慶応義塾	
小野	慶応義塾	
澤野	慶応義塾	
藤野	慶応義塾	
遠野	慶応義塾	
松野	慶応義塾	
山野	慶応義塾	
宗野	慶応義塾	
細野	慶応義塾	
相野	慶応義塾	
西野	慶応義塾	
三野	慶応義塾	
吉野	慶応義塾	

◇訂正(第26号)

3Pの講演の日付け
'98・3・10 ↓ '99・3・10

編集後記



二月の寒気のなか、花屋の店先に水仙が香り、梅の便りが届きます。希望と不安をなймаせて二〇〇〇年を迎えました。それにしても、何ともおぞましい事件が続きます。人間は、いつたい、どうなってしまうのか。土を捨て自然を破壊してしまいうちに、本来の感性を、どこかに見失ってしまったのか、もはや、取り返しのつかないところまで……

ご多忙のなか、心のこもった原稿をお書きくださった、山本会長はじめ皆様、ほんとうにありがとうございます。栃木支部の増測様には、新春のつどいで同じテーブルになり、お願いしたところ、快くお引き受けいただき感謝しております。

留学生相談室には、毎年、支部委員が寄附を届けていますが、こども現状を書いていただきました。

四月から、編集メンバーも、少し替ります。楽しい「ともしび」を作るため、皆様のご意見、ご希望を、お寄せください。

ともしび 二七号 発行日 二〇〇〇年三月一日

発行 社団法人 東京支部 ともしび編集係

〒113-0033 新宿区左門町十一番六・一〇一

Tel 〇三・三三三・五八二・一八八二

Fax 〇三・三三三・五八二・一八八九 印刷 タナカ印刷株式会社